

# 平成18年度機器・分析技術研究会開催報告

技術センター 理学部等部門  
研究情報機器技術班 藤高 仁

## 1. はじめに

機器・分析技術研究会（以下研究会）は分析技術の発展と伝承を目的として平成7年度に開催された分子科学研究所技術研究会に始まり、平成8年度からは各開催機関の技術部等主催による持ち回りで、広島大学にて12回を数える。

また平成16年度の法人化後は、多くの技術職員が安全衛生業務に係わることになったことから、作業環境測定技術に関する意見も積極的に交換し合う場として活用されている。

## 2. 広島大学開催に至るまでの経緯

研究会の開催地等連絡調整組織として地域代表者会議があるが、その地域代表者に選出されている藤高より研究会を広島大学で開催させてほしいとの希望があり、平成14年3月に理学部等技術部所属職員において協議した結果、研究会開催の方向で意見がまとまり、その後開催された地域代表者会議にて広島大学での協議結果を報告したところ、平成18年度の開催予定となった。

しかし平成16年度の国立大学法人化に伴い、広島大学では全教室系技術職員が技術センターへの所属に変更となったため、目的として上げた活動実績及び組織力の向上の意味から、理学部等部門による開催ではなく、広島大学技術センター主催として研究会の開催を希望した。

そこで要望書を作成のうえ平成16年10月の技術センター企画調整委員会（現企画調整部会）に提出し、技術センター主催による機器・分析技術研究会開催が承認された。

## 3. 開催組織・委員会会議について

実行委員長，副実行委員長，実行委員，協力

員といった組織形態をとり実行委員長には技術統括に、副実行委員長には副統括2名にそれぞれ就任いただいた。実行委員は担当別にグループ化し、各担当グループから代表者を選出した。選出された代表者にて代表者会議を開催し、企画立案や懸案事項の協議を頻繁に行った。実行委員会会議では代表者会議での協議結果を報告し検討いただいた。

### <実行委員長>

総責任者（1名）研究会開催にあたり実行委員の統括をおこなう。

### <副実行委員長>

実行委員長の補助及び会計担当（1名），実行委員長の補助及び総務担当（1名）

### <実行委員>

- 総務（2名）学内外関係者及び部署と連絡調整・委員会等会議の設定及び資料作り等，
- 会計（2名）物品の購入・予算の管理等，
- 会場（5名）口頭及びポスター発表会場の準備・進行等，
- 受付（5名）参加受付・名札掲示板製作・名札製作，
- 広報（2名）ホームページ・ポスターの製作等，
- 報告集（2名）報告集の編集及び製作，
- 情報交換会（2名）イベント企画・会場準備・進行等，
- 案内（1名）案内板製作・来場者への案内等

### <協力員>

受付・案内・情報交換会・ポスター発表会場の各補助（27名）

## 4. 研究会について

### (1) 開催期間・場所

#### <開催期間>

平成18年9月14日10時～15日15時30分

#### <口頭発表会場>

広島大学 総合科学部南講義棟1階 L102室  
<ポスター発表会場>

広島大学 総合科学部東講義棟1階ラウンジ

(2) 参加者

全国学術振興機関の技術職員：207名

(3) 発表件数

口頭発表：24件

ポスター発表：40件

(4) 研究会開催スケジュール

平成18年9月14日

<9：00～，受付>

<10：00～10：30，開会式>

○開会にあたり岡田副学長及び藤久保技術センター長より歓迎のご挨拶をいただいた。

<10：30～15：10，口頭発表10件>

○開会終了後続いて口頭発表が行われた。



<15：10～15：40，ディスカッション>

○大阪大学産業科学研究所技術室長山田様より化学系汎用機器利用ネットワークについて情報提供があり活発な討論が行われた。

<15：40～16：00，次期開催地 PR >

○次期開催地富山大学によるプレゼンテーションが行われた。

<16：00～17：40，ポスター発表 40件>

○会場を移動しポスター発表が行われた。



平成18年9月15日

<9：00～15：30，口頭発表14件>

○前日に引き続き南講義棟1階 L102室にて口頭発表を行った。

<15：30，閉会式>

○岩谷実行委員長の挨拶をもって終了した。

## 5. 情報交換会

14日の夕刻より情報交換会が開催され日頃の業務等の情報交換を行った。またポスター賞の表彰や次期開催地スタッフによるユニークなPRが行われ、大変盛り上がった。

## 6. まとめと感想

後日アンケートの集計を行った結果、概ね順調に運営されていた様子が伺えたが、経験不足や準備不足により迷惑をかけた点も判明し反省のうえ今後の活動に活かさなければならない。

今回広島大学技術センターにて全国規模の研究会を開催するにあたり技術統括がリーダーシップを発揮し、関係職員がお互いに協力することによって、このような大きな事業が成し遂げられ、組織化することの意義を実感した。

## 7. さいごに

ご参加、ご協力いただいた関係機関の皆様及びご尽力いただいた広島大学関係者の皆様に深く感謝いたしますと共に、今後開催されます本研究会が益々盛会となるよう願っております。